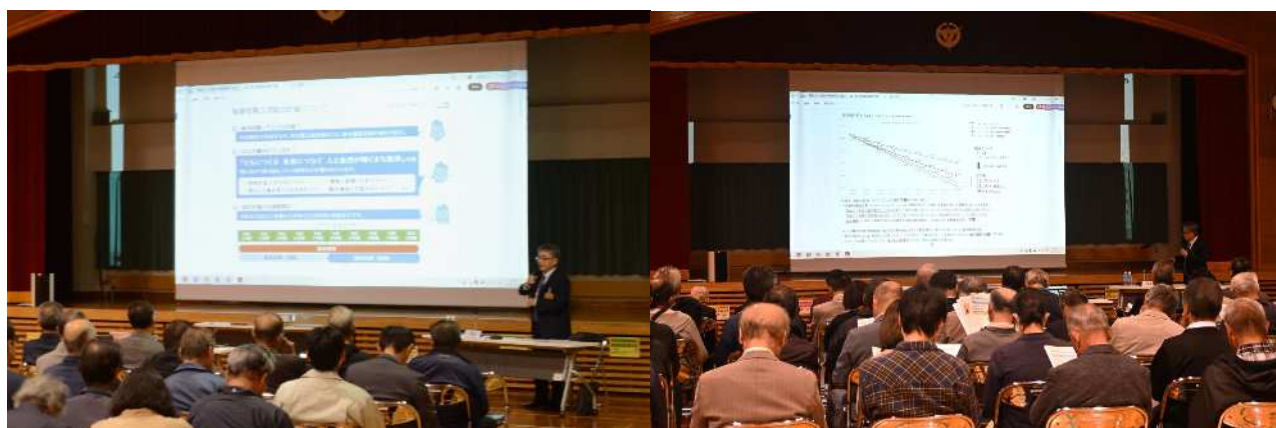


令和7年度 市長のタウンミーティング実施報告書

開催日	会場名	対象地区	参加者数 (人)	YouTube 視聴者数(最高 時点)(人)	YouTube チャット意見 数(件)
10月21日(火)	加積コミュニティセンター 多目的ホール	加積、天神、西布施	63	29	2

市側出席者 市長、企画部長、企画部次長、情報広報課長、その他関係職員

※対象地区は便宜上分けましたが、いずれの会場にも参加可能としました。



1 市長講話

市長 村椿 晃 「魚津市第5次総合計画について」
「富山地方鉄道のあり方の検討状況について」
(45分程度 資料に基づき講話※各会場共通)

2 事前質問(地区から事前にいただいた提言・提案等について)

〈加積地域振興会〉

(1) 「一般家庭向け防犯カメラの設置助成金制度」について

防犯カメラの設置で治安向上が実現されています。愛知県刈谷市の例では、平成15年度に刑法犯認知件数が4,500件を記録し、治安改善が課題となりました。5年間で市内の防犯カメラ数を900台近く増やしたところ、刑法犯認知件数が、46.4%減少しました。特に、家の中に入る侵入盗(住居に不法侵入して窃盗をおこなう、空き巣など)について、65%減少したという効果があったそうです。

魚津市では、そこまでの治安の悪さはないと思いますが、近年の犯罪の凶悪化、広域化を見るに、田舎だから大丈夫とはいってられない状況になってきています。魚津市を含む近隣市町においても、家の鍵かけをしないなど防犯意識が低いと思えます。市民の皆様にご自宅についての防犯意識を持ってもらうためにも鍵かけはもちろん、自宅に防犯カメラを設置してもらえれば、犯罪者のターゲットにならない、犯罪抑止効果があると思います。また、映像に残り、記録が証拠になるといった利点があります。

そのために、「一般家庭向け防犯カメラの設置助成金制度」を設けていただけないでしょうか。家庭向けなので、それほど高額ではありません。助成は、購入設置金額の2分の1、上限1万とかでいかがでしょうか。

(村椿市長)

一般家庭向けの防犯カメラ設置制度については、刈谷市の事例がありましたが、刈谷市においては、刑法犯の認知件数が年間4,500件ということで、何か手を打たなければならない差し迫った状況があったとお聞きしています。

魚津市については、令和6年度の刑法犯認知件数は、172件であり、刈谷市と比べれば桁が違います。富山県全体では4,991件であり、その3.5%にあたります。市町村別で見ると、172件という件数は、県内15市町村の中で4番目に多いです。圧倒的に富山市が多く、魚津市は4番目に多く発生しております。

結論から申し上げますと、個人宅への防犯カメラの設置を一斉にしなくてはならないほど差し迫った状況ではないと考えております。ただ、個人のお宅でなくても、犯罪にあう可能性のある暗い場所などの危険箇所へのカメラの設置については、抑止力になりますので、必要性が認められる箇所には、防犯カメラの設置を進めていく必要があると考えております。例えば、公共施設の周辺、多くの人が入り出る鉄道の駅周辺や繁華街など、実際に、市では、そのような場所に防犯カメラを設置しております。市内に195台設置している内、加積地内には、清流小学校、加積コミュニティセンター、東部中学校及び六郎丸の配水池など、併せて11台設置しております。

市としましては、まずは犯罪等が発生しそうな危険性の高い箇所、公の場所への防犯カメラの設置を充実させてまいりたいと考えております。一般家庭向けの防犯カメラの設置制度については、特に県内の他市町村の補助制度も勘案しながら検討してまいりたいと考えております。

〈西布施地域振興会〉

(1) 県道の樹木の枝について

主要な県道において、電線に樹木の枝が絡まっている箇所や道路にはみ出している枝が多数見られます。これらの状況は、防災上及び交通の安全上、大きくリスクを伴う可能性があります。事故や災害が発生する前に、具体的な対策を講じていただきたい。

(村椿市長)

県道道路管理者である新川土木センターにお伝えしたところ、道路に隣接する民地から植生して道路にはみだしている樹木については、基本的には土地所有者にて対応をお願いしているところですが、明らかに道路の通行に支障がでている場合は、当面の通行が確保できるだけの応急対応、例えば、道路にはみ出ている部分のみの枝木の剪定などは実施したいと伺っております。また、県では週1回県道のパトロールを実施し、道路に異状があれば、その都度対応を実施しているところですが、管内全ての区間を隅々ま

で管理することが困難であることから、今後も危険な状況があれば新川土木センター道路維持班（22-9119）までご連絡いただけると助かりますと伺っております。

市道につきましても、県道以上に管理する延長が長いため、全ての区間を隅々まで管理することが困難であるため、お気づきの点がございましたら、建設課（23-1029）までご連絡いただけると大変助かります。

また、魚津市ライン公式アカウントからも道路の異常を通報することができます。写真や位置情報を送信することができ、場所や状況が特定しやすいため、是非、魚津市ライン公式アカウントからの通報をお願いいたします。

（2）コミュニティバスでの乗り残しについて

コミュニティバスについて、昨年、最終便での乗り残し、ピックアップ漏れが何度か発生したと連絡し、対応をお願いしました。具体的に、どのような対応を取られたのか教えてほしいです。ドライバーへの注意や指導だけでは不十分に感じられます。ほかの地区でも同様の事例がありますか。

（村椿市長）

コミュニティバスでの乗り残し、ピックアップ漏れにつきましては、停留所でバスを待っているのに、バスが通り過ぎてしまったというケースです。

最終便での乗り残しについては、「江口停留所」において複数回発生したことを確認しております。原因としましては、最終便は日が落ちて暗くなる時間帯に運行されるため、停留所付近の視認性が低下し、待機されている方の存在を見落とすおそれが高くなる点にあります。この点を踏まえ、「江口停留所」には反射材として蛍光テープを貼り付ける対策を講じました。夜間に照明が不十分なところでも遠くから視認できる工夫を加え、乗務員の確認と乗客の見落とし防止を図っております。

他の地区の状況ですが、他の地区より同様のご意見をいただいております。全体として更なる安全性、利便性向上を目指して早急な対策を講じてまいります。

〈YouTube 配信を見た方から〉

（1）富山地方鉄道について（社会人通勤者対応）

視覚に障がいがあり、現在、障害者雇用を利用し、新魚津駅から市外の駅まで毎日通勤しています。今回のタウンミーティングを拝見していると、富山地方鉄道の廃線時には、学生の通学問題に対応し、通学用バスが検討されているようですが、社会人通勤問題などは切り捨て方針なのか気になりました。富山地方鉄道が廃線になれば、通勤ができなくなり、無職になる問題が発生します。あいの風とやま鉄道では、通勤が難しい状況であり、あいの風とやま鉄道以外で市町村をまたぐ交通手段を設けるのは難しいでしょうか。学生だけではなく、社会人でも廃線により生活環境が大きく支障を来す者がいることを知ってもらえると助かります。

(村椿市長)

地鉄の廃線にかかる通学者や通勤者への対応についてですが、先ほど、仮に鉄道が廃線になるとすればという仮定で、滑川－新魚津間のバス代替のお話をしました。

鉄道が廃線になったら、バスで代用対応しますというお話ではなく、もしバスを利用するとなるとどれぐらいの費用がかかります、というお話をいたしました。学生に限ってだけ、何か対応を検討しているというわけではありません。

むしろ、学生も含めてですが、本当にどういう対応を取るべきなのか、しっかり検討していかなければならないという話になります。

滑川－新魚津間だけをみれば、併行区間なので、あいの風富山鉄道を利用することが可能です。もう少し広い範囲となると、黒部方面の話等になりますと、あいの風とやま鉄道では対応できません。そのようなケースについて、どのような対応が考えられるのかということ、富山地方鉄道本線のあり方調査を実施しておりますが、その調査をベースにして、代替交通も含めた対応策についても協議していきたいと考えております。

全国的なシミュレーションの話をするれば、例えば、鉄道を全部廃止となった場合、バスを使ったり、タクシーを使ったり、いろんな乗り物を利用して、今、鉄道を利用している人の移動を全部確保させるとすると一体どれぐらいの費用になるか試算しまして、それだったら、鉄道で残した方が、経済的であるとか、そういうような比較をしているケースもあります。

今回、我々の富山地方鉄道のケースも、そのような試算をしていくことになると推測しておりまして、むしろ鉄道として残して、行政も応援していく方が経済的だという答えが出る可能性もあるわけです。社会人の通勤者への対応を念頭に置いていない、考えに入れてないわけではないということだけはお伝えしたいと思います。

(2) 魚津市内における視覚障害者の障害者雇用を受け入れについて

長年、魚津市内には視覚障害者の求人がなく、視覚障害者の障害者雇用を受け入れていただける企業の拡大も検討していただけると幸いです。

(村椿市長)

視覚障害者を雇用していただける企業の拡大についてですが、これはなかなか難しい問題であろうかと思えます。市外に視覚障害者の方を受け入れる企業があり、富山地方鉄道を利用していらっしゃるということですが、魚津市内にそういった企業がないということです。

制度とすれば、障害のある方を雇用した場合に、そういったことを奨励する奨励金制度があるのですが、実際にその制度を活用して、視覚障害のある方も働ける職場について取組をする企業は、市内にまだないということが現実です。

市としましては、ハローワークや商工会議所と連携し、各種制度の周知に努め、視覚障害を持った方でも、働ける雇用を受けていただける企業の拡大ということ、しっかりと目に見えるように訴えて、アピールしていきたいと思っております。

3 意見交換（参加者からの提言・提案等について）

（1）新しい室内温水プールについて

（村椿市長）

プールの整備構想自体は、7年ほど前から検討が始まっており、50メートルプールについての検討もありました。50メートルになると公式競技用のプールになります。公認記録もできます。この場合、論点が2つありました。1つは、建設費用が莫大になる。もう1つは、50メートルプールを公認記録用に位置づけるための維持費というふうなものが非常に高くなります。年に何回そういった大会があるだろうか等、いろいろなご意見がありまして、結果として、これまでの25メートルと同様の規模になった経過があります。現プールでも、当初10億円程度で整備しようとしておりましたが、外構工事まで含めると、17億円余りとなりました。これが50メートルプールとなりますとどうだったのか想像されるわけです。

（2）富山地方鉄道について

並行区間の地鉄が廃止されると、電鉄魚津、西魚津がなくなるが、本当にそれでよいのか。

（村椿市長）

それでよろしいとは思っておりません。それでよろしいと決して思っておりません。

仮に並行区間の富山地方鉄道が廃止された場合に、まだ議論にはなっておりませんが、あいの風とやま鉄道が既設線に乗り入れるという手法が1つ考えられます。その場合には、西魚津なり、電鉄魚津なりに駅を残すことができる可能性が生まれます。ただ、本当に可能なのかどうかは、わかりません。かつて富山地方鉄道の特急列車が宇奈月まで走っていました。ですから、今も物理的に走ることは可能だと思いますが、富山駅で線路を上の方に上げる高架化という工事が行われており、あいの風富山鉄道を富山地方鉄道に乗り入れる乗り入れ線は、現在、使えなくなっております。これを実現させる時には、魚津もしくは滑川のあたりで乗り入れする乗り入れ線を作らなければなりません。これが本当にできれば、この並行区間の富山地方鉄道が廃止されても、電鉄魚津なり西魚津なりの駅を何とか生かすことも可能性としては考えられることとなります。

（並行区間の地鉄が廃止されると、電鉄魚津、西魚津がなくなるが、）本当にそれでよいのかと（いうご意見を）言われておりますけど、それでいいとは思っておりません。

（3）魚津市の人口減少について

魚津の人口の減り方が、滑川、黒部と比べて激しい理由はなぜでしょうか。ショッピングセンターも飲食店もホテルも学校も、また、マスコミでニュースになる回数も、滑川市、黒部市より多いような気がしているのですが、大企業の有無ですかね。純粹に不思議です。

(村椿市長)

状況だけ申しますと、滑川市と黒部市と比べてですと、黒部市の人口も魚津市と同じような減り方はしています。若干、黒部市の方が子供の数が多い状況ではありますが、極端に魚津市に比べて黒部市が減っていないということではなく、同じような減り方はしています。

滑川市は状況が違います。滑川市は社会増といいまして、他の市町村から、滑川市に入って来る人の方が多いです。それは、魚津市からも滑川市へ移動していますし、魚津市以外の市からも、滑川市の方に移動しています。特に県東部からですが、若い世代が多く移動しているということがあります。

市の平均年齢という考え方はあるのですが、その平均年齢が魚津市と滑川市と比べると、2歳ぐらい違ってきます。要は滑川市が2歳ぐらい若い状況です。それは、一朝一夕になったのではなく、過去20年、30年、こういうスパンで、人の移動が続いてきた結果そうなったということになるかと思っております。

大企業の有無ということでは、例えば、熊本等の事例ですが、半導体のTSMCが立地したことで熊本は人口が増えていますけど、そういう大企業が来てそれに伴って、増えるというふうなことは、当然あり得るといふふうに思います。魚津市、黒部市、滑川市間での差が、大企業によるものかと言われるとそうとも限らないと私は感じております。

ただ、繰り返しになりますが、魚津市は早く発展して、早く都市化が進んで、海沿いを中心に人口が結構集中していたのが、市の郊外に居住が広がっていき、それがさらに市を超えて、隣接の市の方にいわば展開していったといったことが過去何十年か繰り返されたことによって今の状況になっているという理解が正しいと思っております。

ここ近年ですが、そういう人の移動そのものが少なくなってきました。昔のようにたくさん人が出たり入ったりするということではなく、人の移動も少なくなってきましたので、冒頭、総合計画のときも申し上げましたけれど、いかにして、住んでいる人が、ある種、安心できる満足できるような環境を主としてしっかり用意していくのか、そして、若者ができれば出て行かないような対策を打つのかということ、これをしっかりやるのが、大事だと思っております。

(4) ごみの焼却、分別、回収について

ごみの焼却について、サーマルリサイクルを採用する可能性はあるのでしょうか。費用や全体量等の問題もあると思いますが、発電して売電するなど、利点があります。採用できないなら、何が問題になるのでしょうか。

従来の分別について、すごく細かく分別して回収しているが、実際はどのような処分をされているのか、現状について疑問に思います。分別するだけの労力に見合った方法なのか伺いたい。

また、焼却場の見学等させていただけるようなイベントがあったと思うが、復活しないのでしょうか。

(村椿市長)

サーマルリサイクルとていうことで、一括で集めて一括で焼却処理するというのですが、まずその採用の可能性についてお話します。魚津市のごみは、魚津市、黒部市、入善町及び朝日町の2市2町で新川広域圏事務組合という一部事務組合を作って、ごみの処理をしております。その焼却場は朝日町にあります。焼却場を作ってから年数が相当経って焼却炉がかなり傷んできております。それで、今、却炉の基幹的改良を実施しております。新しく作り直すのではないのですが、今の時代にあったように、補修し直します。補修といいましても、すごいです。事業費が全部で80億円ぐらいかかります。そういった補修を今進めている最中です。

そこで、何を言いたいかということ、普通は燃えるごみがありますよね。燃えるごみと、燃やせないごみに分けていただいて、その燃えるごみについては、朝日町にある焼却場に持って行って、燃やしております。プラスチックとかありますよね。それは、今、分けていただいていると思います。例えばペットボトルなどに張り付いている容器包装みたいなものは、これをビニプラって呼んでいます。あと、そういうものとはまた別で、例えば硬いビニール製の器だったりとか、ハンガーだったりとか、そういうプラスチック、ありますよね。そういうものは、今、どうしているかということ、これは黒部市の山手の方にある粗大ごみの処分場がありまして、細かく破碎して、埋めている状況です。

ちょっと回りくどくなりましたが、新しい今、直している焼却場では、今ほど申し上げたビニプラを燃えるごみと一緒に燃やす、これを混焼と言いますが、一緒に燃やすことができるようにしようということで改修をしています。

そのために、焼却炉の炉壁といいますか、熱が上がるので、高熱に耐えられるような壁にするとか、ごみを入れるときにも、綺麗に細かくして、入れるようにするとか、いろんな改善をする取組を実施しています。

ですから、全てのごみを全部一緒に燃やせるわけではないのですが、これまで分別をしていたビニプラを燃やせるごみと一緒に燃やすことができる。そういった施設を、今、計画して、実際に改修に移っております。その際に、実は、売電の検討もいたしました。発電できないのかということで、発電の可能性についても検討いたしました。シミュレーションをしたところ、発電設備を作って、電気をおこして、電気を売る。売って儲かるのならばいいのですが、逆に経費の方が高くなって、損をしてしまうという結果が出ました。そうであるならば、発電設備の部分は、諦めようということになりました。

実際の分別については、市民の皆様のご協力もありまして、燃えるごみ、燃やせないごみ、粗大ごみ、先ほど言ったプラスチック、そういったものはかなりきちんと分けていただいて、それを回収していると思っております、感謝しております。

最後に、焼却場の見学は、子供たちの遠足などで見学を確か実施していますし、一般の方でも、見学は可能だというふうに、認識しております。また確認をしておきたいと思っております。